

2016年度（2017年3月）卒業アンケート結果について

※数字は実数

2017年3月卒業生112名のうち、90名から回答があった。

I 専修言語について

専修言語	英語	フランス語	ドイツ語	中国語	韓国語	日本語	合計
	42	11	4	2	8	4	71
1 .あなたが専修言語以外に学んだ言語は何ですか。（複数回答可）	英語	フランス語	ドイツ語	中国語	韓国語	日本語	
	28	4	8	12	6	0	
	その他	未選択	無回答				合計
	0	0	0				58
<その言語を学んだ期間>	1年春学期 ～1年秋学期	1年春学期 ～2年春学期	1年春学期 ～2年秋学期	1年春学期 ～3年春学期	1年春学期 ～3年秋学期	1年春学期 ～4年春学期	
	18	12	9	3	11	7	
	1年春学期 ～4年秋学期	2年春学期 ～2年秋学期	2年春学期 ～3年春学期	3年春学期 ～3年秋学期	4年春学期のみ		合計
	21	1	1	1	3		87
2 .あなたが学んだ研究プログラムは何ですか。（複数回答あり）	①異文化国際理解プログラム	②観光ホスピタリティプログラム	③翻訳・通訳プログラム	④国際ビジネスプログラム	⑤英語専門職プログラム	⑥比較社会文化研究プログラム	
	12	29	10	6	6	1	
	⑦ヨーロッパ研究プログラム	⑧アジア研究プログラム	⑨日本研究プログラム	無回答			合計
	10	16	4	3			97

専修言語以外に学んだ言語の回答をみると、第1言語が英語の学生は中国語を選択したものが多かった。昨年度に比較して、数字上では第2言語を選択していなかった英語専修学生が多かったように見えるが、未選択及び無回答が0であることから実際のところはよくわからない。

また、第1言語が英語以外の学生はやはり第2言語として英語を選択履修したことがわかる。

本学では2つの言語の学修を推奨しているが、第2言語を学修した期間を問う回答では、1年生の1年間だけでなく、留学前の2年生春学期まで、また卒業前の4年生秋学期まで履修を継続した学生もかなりいること

がわかった。ただし、1年間だけと回答した学生と4年間継続したと回答した学生数に大きな違いがないことから、初修段階でやめる学生とそうでない学生とに分かれると考えられる。

学修した研究プログラムをたずねる質問では、複数回答ではあるが、昨年度と同様、観光ホスピタリティ研究プログラムとアジア研究プログラムの回答が多かった。昨年度は無回答（10）とする学生も多く、「研究プログラムごとの最低 修得単位数が設定されておらず、研究プログラムを横断して必要な科目を履修できるような設計になっていることから、研究プログラムへの所属意識が希薄とも言えなくはないように思われる」と指摘したが、今年度は無回答数が昨年度より大きく減っている。このことから直ちに研究プログラムを柱に学修する体制がようやく定着し、専修言語と研究プログラムの主体的な学修が一体化しつつあるといえるかどうかは引き続き注視していかなばならない。来年度において、また昨年度のような無回答が多くなるようでは、教育課程上の研究プログラムの設計自体を再考する必要がある。

II 教育課程について

	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまり思 わない	④思わない	⑤わからな い	(無回答)	合計
1. 「基礎演習Ⅰ」から「日本語表現法Ⅴ」までの日本語リテラシー科目は、様々な学修を行っていくうえで必要だと思いますか。	56	27	1	1	0	5	90
2 .自分の興味や関心に従って、授業科目を履修することができたと思いますか。	41	40	6	0	0	3	90
3. 卒業するにあたって、この4年間で十分な語学学習ができ、語学力が身についたと思いますか。	43	35	2	0	0	10	90
4 社会で必要となる教養や専門知識など身に付けることができたと思いますか。	51	32	1	0	0	6	90
5 .自らが学びたいという姿勢、主体的に学ぶ力は身についたと思いますか。また、卒業後も、自ら学ぶことのできる力が身についたと思いますか。	53	29	1	0	0	7	90

設問 1 の、初年次導入科目ならびに日本語リテラシー科目(1 年次~3 年次必修)の必要性については、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した学生の割合が92%あり（昨年度は93%）、その必要性の認識は定着してきたと言えそうである。

設問の2はカリキュラムが昨年度と変わっている訳ではないが、「あまり思わない」「思わない」の割合は昨年度に比べ大きく減少（17→6）する一方、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した学生の割合は

90%で昨年度より大きく増えている（昨年度は78%）。上述の専修言語のアンケートにみられたように、専修言語と研究プログラムの主体的学修意識が今年度卒業生にはあったということかもしれない。

設問3の語学力については、本学の語学教育課程において、「そう思う」「ある程度そう思う」とある程度以上の語学力を身につけることができたという肯定的回答した学生の割合は87%で昨年度より若干増えている（昨年度は84%）。ただ、無回答が多く（2→10）、自己の語学力について自信がないのか、客観的な判断が示せないのか、よくわからないところである。

設問4では、設問1と同様、「そう思う」「ある程度そう思う」と肯定的回答した学生の割合は92%で昨年度に比べて若干増えている（昨年度は90%）。教養科目や専門科目などを通して、学生たちが必要とする知識や教養を身につけることができたという評価していると考えられる。

設問5は、大学教育の本質的役割の問いであるが、「そう思う」「ある程度そう思う」と肯定的回答した学生の割合は91%で昨年度から若干増えている（昨年度は89%）。ただ、設問3と同様に無回答が多く（2→7）、これも自己の学修結果について自信がないのか、客観的な判断が示せないのか、よくわからないところである。

教育課程の設問については、全体として「あまり思わない」、「思わない」との回答が昨年度より大幅に減っていることは喜ばしいが、「無回答」が多いのはとても気になるところである。

III 大学生活について

	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまり思 わない	④思わない	⑤わからな い	(無回答)	合計
1. 学業にやりがいを持って取り組むことができたと思いますか。	51	29	4	0	0	6	90
2. 自分の学生生活（学業以外）は楽しかったと思いますか。	58	25	2	0	0	5	90
3. 授業内外、課外活動などで教職員との接点を持つ機会があったと思いますか。	50	27	6	1	0	6	90
4. 在学中の交流はできましたか。	51	30	6	0	0	3	90
5. 全体的に大学側のサポートは適切でしたか。	43	32	7	0	2	6	90

設問1の学業面について、「やりがいを持って取り組めた」とほぼ肯定的な評価が寄せられており89%となっているが昨年度より減っている（昨年度は93%）。ほぼ9割のこの数字をみれば、充実した学業生活をおくることができたという受け止めている学生がほとんどだと考えて良いだろう。

設問2の学生生活全般についても、「楽しく過ごせた」とほぼ肯定的な評価が寄せられており92%となっている（昨年度は95%）。この数字をみれば、充実した学生生活（学業以外でも）をおくることができたという受け止めている学生がほとんどだと考えて良いだろう。

設問 3 は教職員との距離感をたずねているが、これも昨年度より「そう思う」「ある程度そう思う」の割合はあがり（昨年度82%→今年度86%）、肯定的な評価を受けている。特に、少人数、教員と学生との近さ、接点の多さをアピールしていることから、この評価を失うことのないようすることが重要である。

設問4 では、日本人学生・留学生を含め、学生間の交流についてたずねている。設問は「在学中の交流はできましたか」とやや抽象的な質問となっており、留学生との交流(日本人学生とり)、日本人学生との交流(留学生にとって)、また留学生同士、日本人学生同士を分けずにたずねた。どのような交流を思い描いて回答したかは明確ではないが、少なくとも数字から見れば、「そう思う」「ある程度そう思う」の肯定的評価の割合は90%になっており（昨年度は86%）、学生同士の交流は積極的にはかられたようである。

設問5も曖昧なたずねかたであるが、他のいずれも回答結果と同様、「そう思う」「ある程度そう思う」の回答は昨年度の81%から83%へと若干上がっており、回答の結果からみれば、4年間学んだ大学に対して肯定的な評価判断を下しているといえよう。

設問全体としては、IIと同様に、「あまり思わない」、「思わない」との回答が昨年度より大幅に減っていることは喜ばしいが、IIIにおいても「無回答」が多いのは気になるところである。

IV 自由回答について

自由にコメントを書いてもらっている。

「もっと頑張ればよかった」との自己反省の弁を記した卒業生や、「単位履修について、希望の科目が少なくて困った。(履修したい科目が少なかった)」と率直な気持ちを書いてくれた卒業生もみられたが、これ以外に否定的なコメントは見当たらず、大学への好意的なコメントが寄せられている。いくつか、本学にとって嬉しいコメントを抜粋しておきたい。

「前より、英語でコミュニケーションできるようになった。」

「英語学習に専念することが出来ました。卒業後のやりたいことも明確になりました。」

「大学生活がとても楽しかったです。いろいろな国の人と交流が出来て、良い経験になりました。」

「大変でしたが楽しい4年間でした。ドイツ語専修で教員免許も取得できてよかったです。」

「様々な言語を学べ、多くの学生と交流できた。素晴らしい4年間をありがとうございました！」

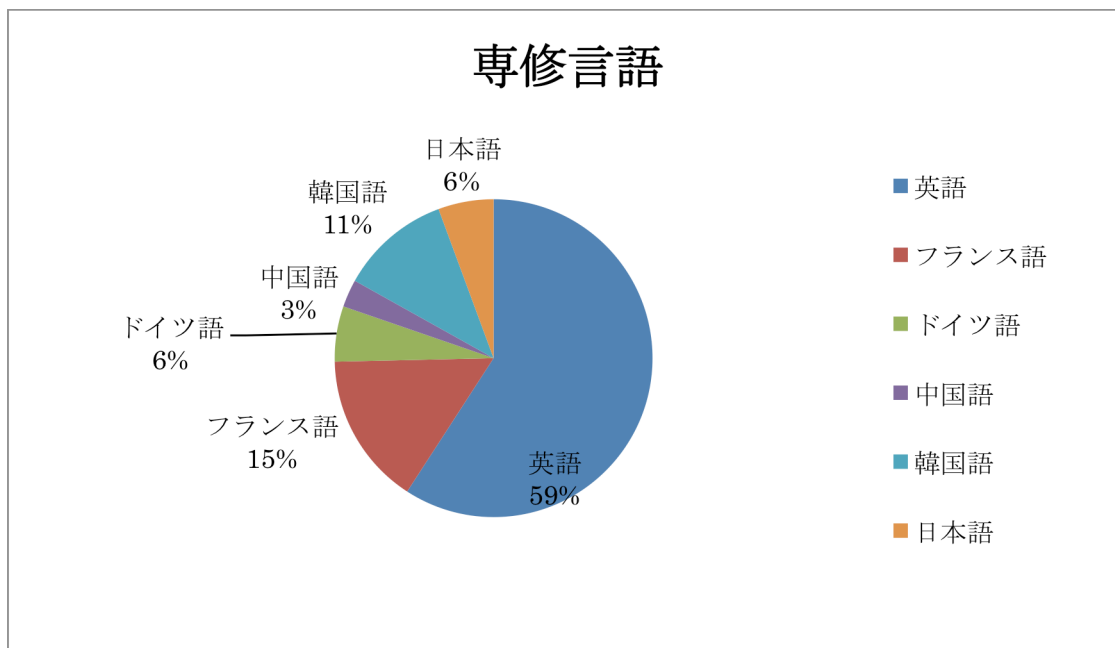
「留学もできて楽しかったです。ありがとうございました。」

言語学習、教育課程、大学全般について、卒業生に対して行ったアンケートの結果への若干のコメントを付した。最後に、毎年のごとであるが、これをもとに問題点や課題について点検し、これを修正・改善することによって、より良い教育環境及び学修生活環境を実現していくことが本来の目的であることを確認しておきたい。

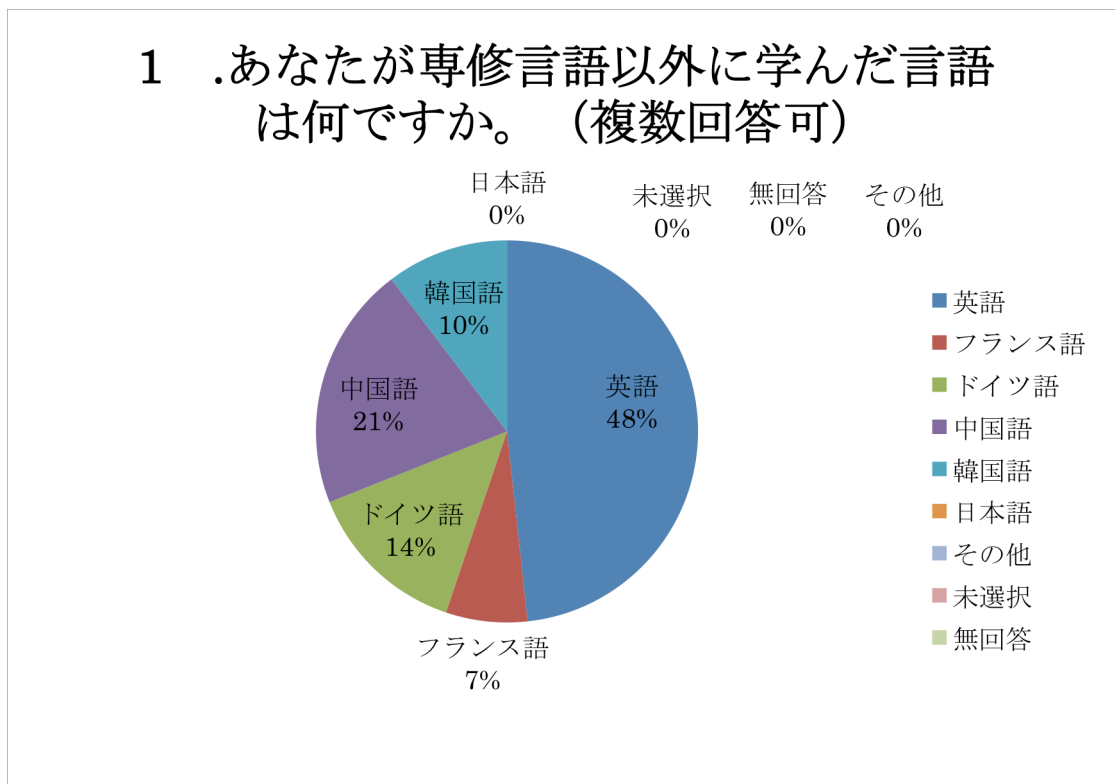
教育支援部長
山川欣也
2017年8月25日

グラフ資料

I 専修言語について

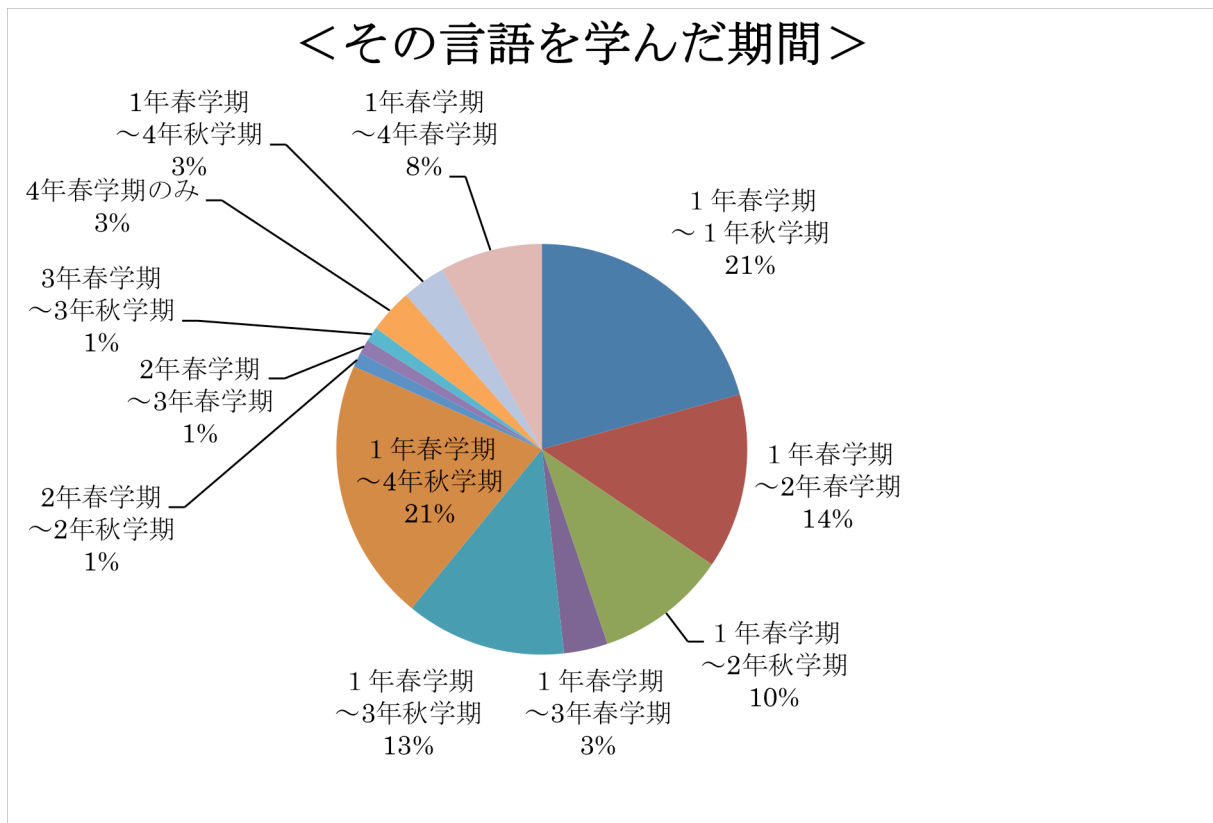


(設問1)

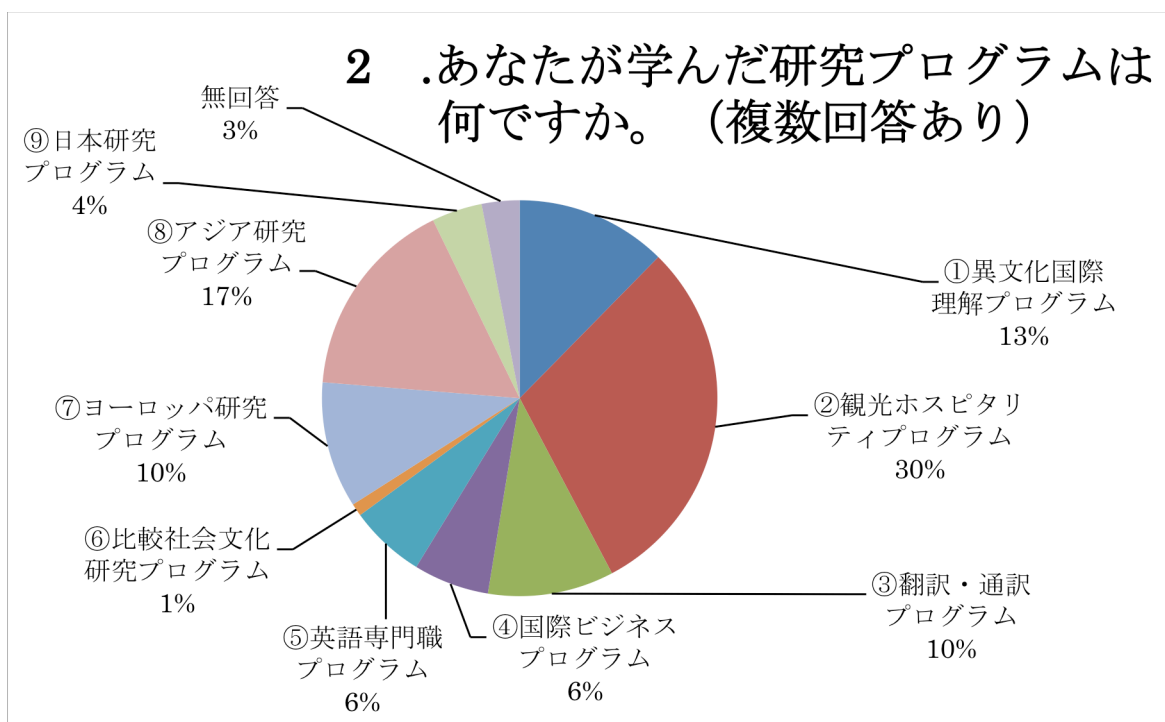


(設

問1-1)

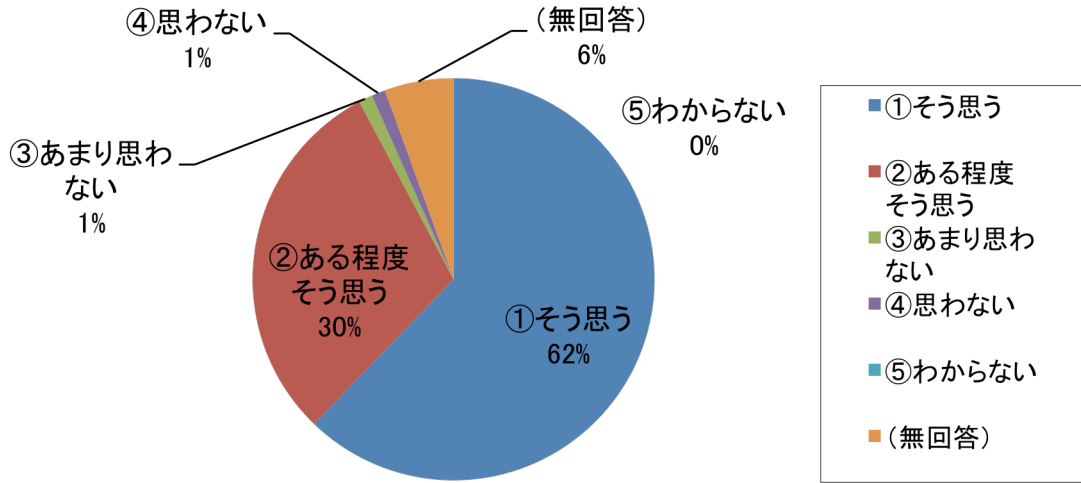


(設問2)



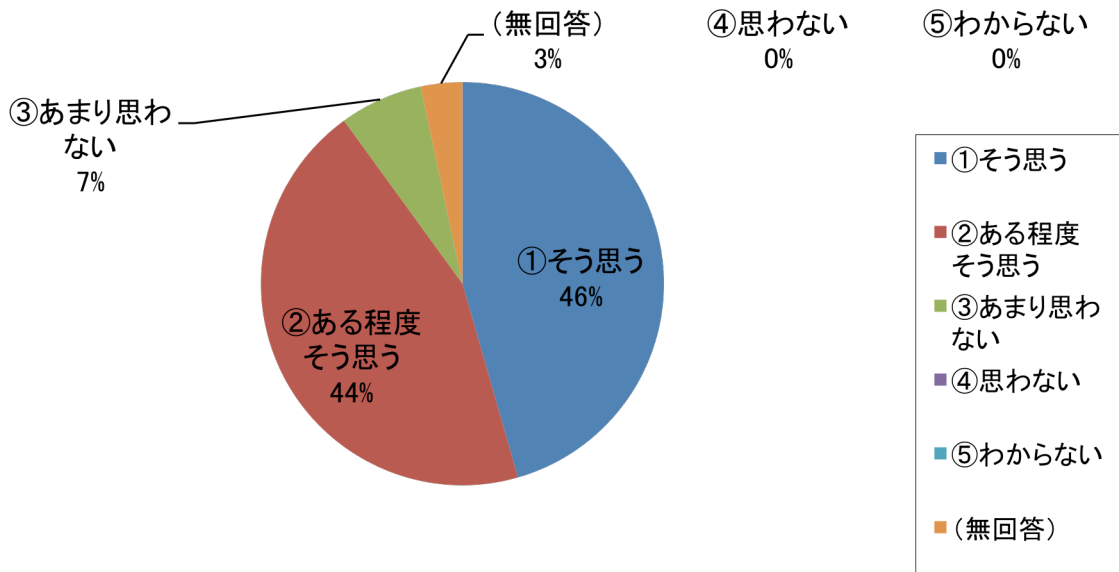
II 教育課程について
(設問1)

1.「基礎演習Ⅰ」から「日本語表現法Ⅳ」までの日本語リテラシー科目は、
様々な学修を行っていくうえで必要だと思いますか。



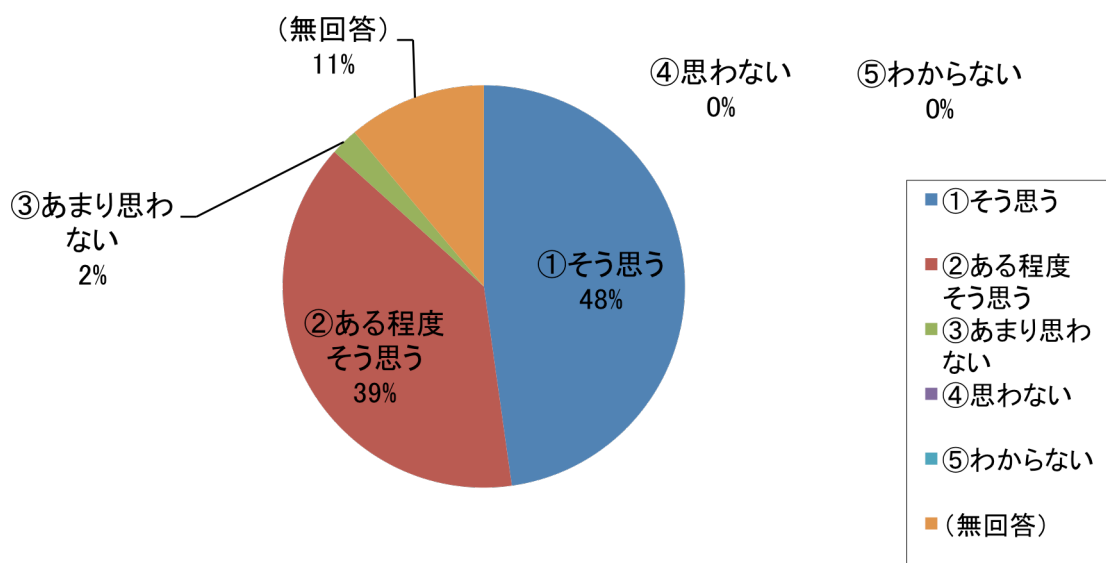
(設問2)

2.自分の興味や関心に従って、授業科目を履修することができたと思いますか。



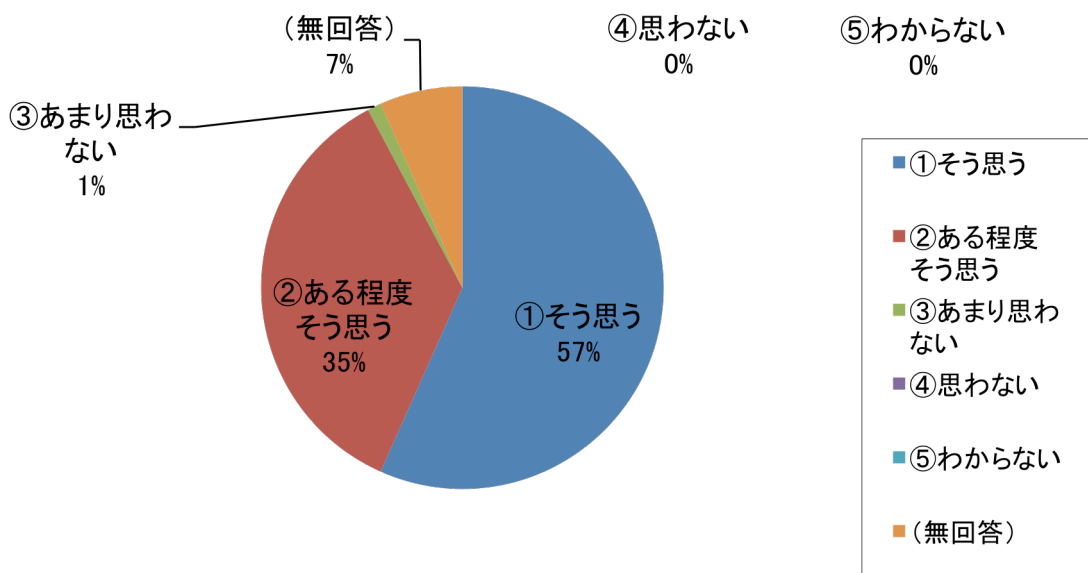
(設問3)

3. 卒業するにあたって、この4年間で十分な語学学習ができ、語学力が身についたと思いますか。



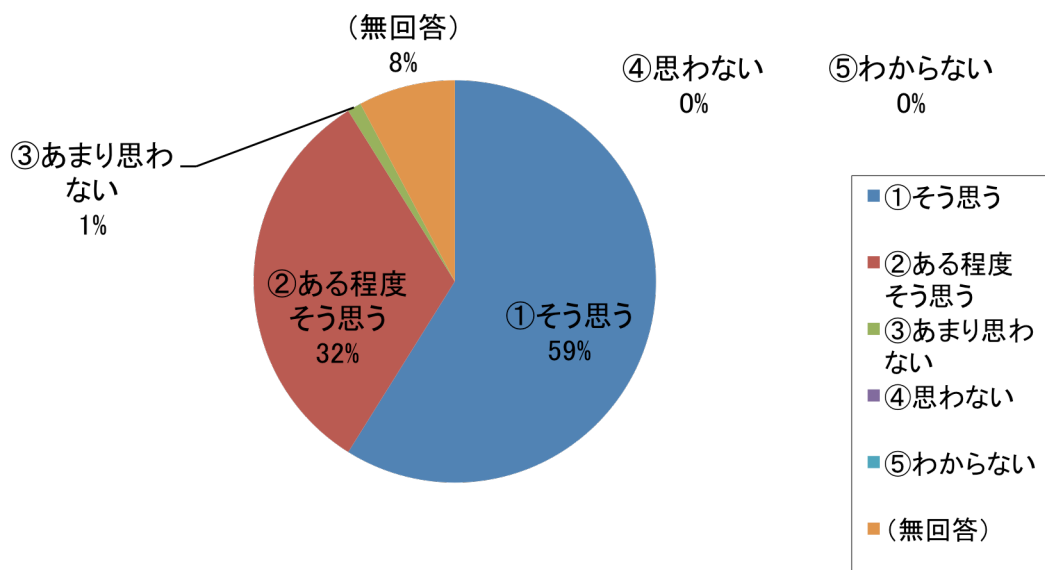
(設問4)

4 社会で必要となる教養や専門知識など身に付けることができたと思いますか。



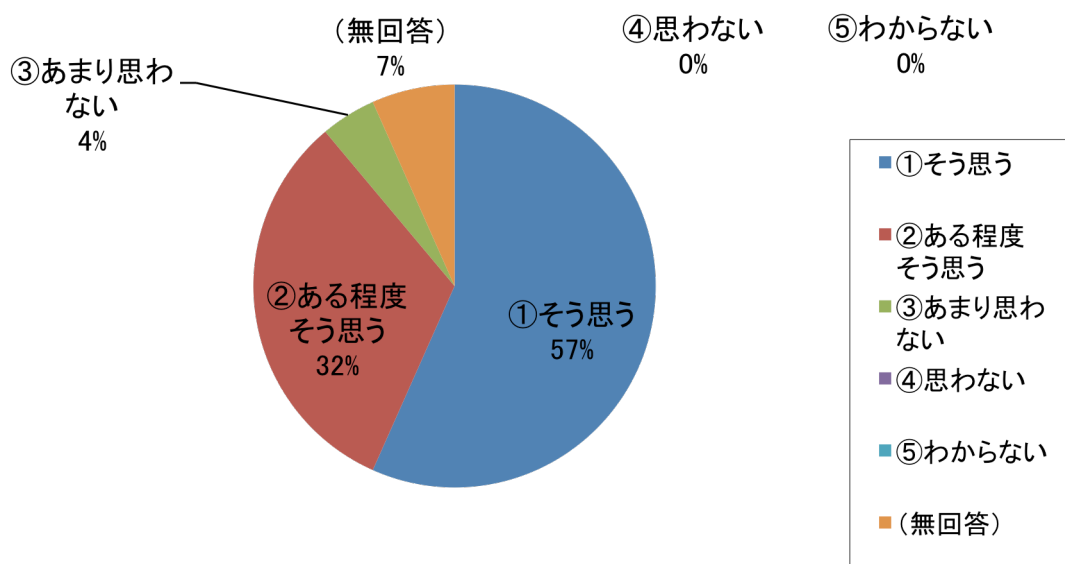
(設問5)

5. 自らが学びたいという姿勢、主体的に学ぶ力は身についたと思いますか。
また、卒業後も、自ら学ぶことのできる力が身についたと思いますか。



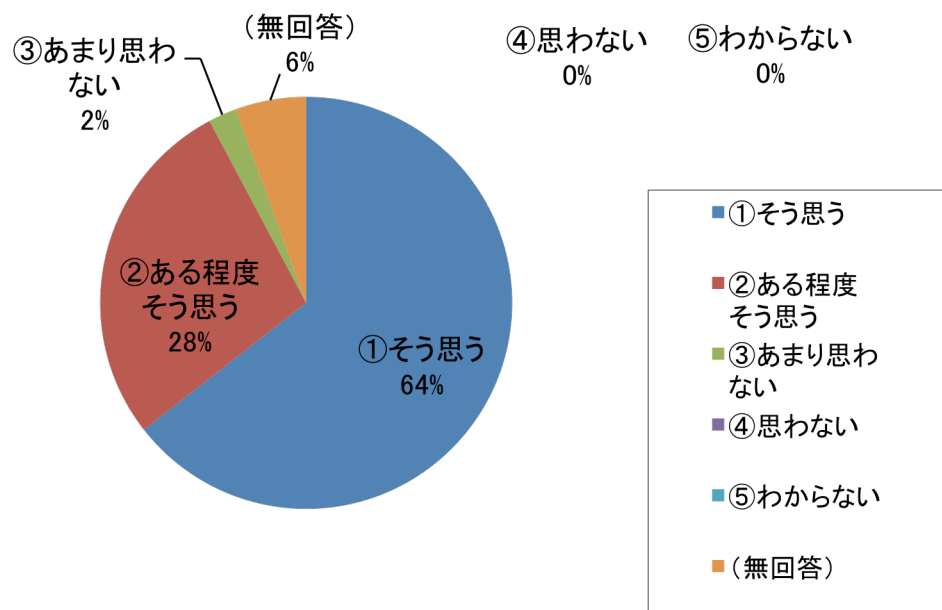
III 大学生活について
(設問1)

1. 学業にやりがいを持って取り組むことができたと思いますか。



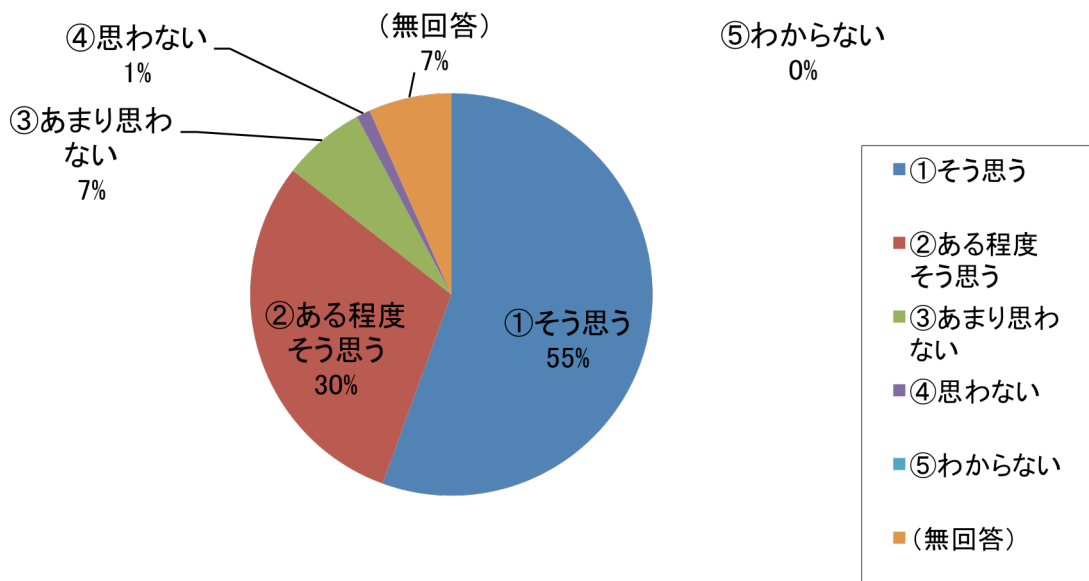
(設問2)

2.自分の学生生活(学業以外)は楽しかったと思いますか。



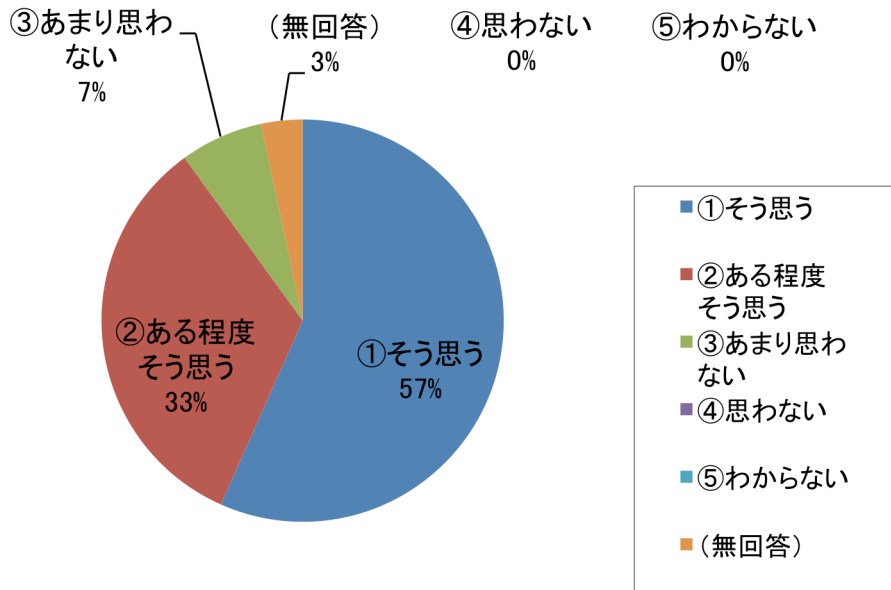
(設問3)

3.授業内外、課外活動などで教職員との接点を持つ機会はあったと思いますか。



(設問4)

4.在学中の交流はできましたか。



(設問5)

5.全体的に大学側のサポートは適切でしたか。

